明治四十三年七月十日 第四百五十五號 (一) 朝鮮四十三年七月十日 (木曜日) 第四百五十五號 (日刊) 月曜及祭日の翌日休刊

京城新報

明治四十三年七月十日 第四百五十五號 (日刊) 月曜及祭日の翌日休刊
本紙定價 一枚金二錢 一ヶ月前金壹圓 六ヶ月前金貳圓 三ヶ月前金壹圓 一ヶ月前金貳拾錢 月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 五十錢 三十錢 七十五錢 一行金七十五錢 一行金七十五錢 一字十七字詰 一行金七十五錢 一字十七字詰
發行兼編輯人 高木久馬太郎
印刷人 京城西署西小門通(電話六六二二)
發行所 京城新報社

人の一生は重き荷を負ふて遠き路を行くが如し急ぐ可からず

特別廣告

居宇佐美勝夫

南小門外內部官舍
(元圓覺局官舍)
(電話 八五〇番)

漢城より

北韓山生

▲北米桑港を中心として各地に散在せる韓人等は目下合併反對會を組織し米人の吸力を集成んとすと傳へらる、無論何の役に立つものせ無く別に氣を衆ねるにも及ばねども、小五月蠅き行動は明かに韓を事共に侯はずや。

▲安奉線開通の晩には、今の京城、巴里間二週日の旅程は若干短縮せらるべく、殊に現在の安奉線の危險なるに聞き怯ぢたるものも亦此の途を取るが多かるべく、日本滿洲の交通上、一新紀元を劃すること相成る儀に付き鐵道院に於ては鴨綠奉天間設備を完全にせんが爲め百万圓を投じて下ノ關に棧橋を架し向後運搬にては百五十萬圓を以て二千五百噸內外の汽船二隻を建造し勝絡船に充つべく、續ては明後年、安奉線開通期迄に完成する都合なるやに聞座候、斯くてはもしながら世界の公道と申す際合ゆものなりと聞及び候、而して其頃にも成らば、登場中なる勞働者も運輸の運びに相成るべく、韓人万歳、人は長命せば良き日に遇はれぬものと合點参り候。

▲先頃滿韓を視察して歸へりたる水野內務參事官は滿韓の行政は不統一にあらざるも、其統一せるは事實也、併し其の統一せる間には內地行政當局者の參考と爲すに足るべき頗る多の發達せるものありとて、其の例として、韓國居留民團の實力あり、活氣あり、且民團議員の撰擧には爲へども撰擧後は黨派心を捨て平和に民團の發達に努めつゝありと云へる由に候。

▲吾等は此の例を否認し能はず、然れども之れを是認するに餘りに知ることの多くして自ら慚恥たらざるを得ず候、一番八百長で出懸くるの存念を諒せられ度誠省に愈勝致し候。(十一日)

滿洲大豆の前途

▲大豆輸出の割合 滿洲に於ける昨年の大豆產額は最近に至りて六百五十萬石と決定したるが之を前年の八百萬石に比すれば約二割の減少を示す前年來滿洲大豆の輸出は一轉して歐洲に向ふに至り從來日本六分南清四分の割合を出て輸出したるものは日本四分歐米四分南清二分の割合となり其形勢に一變革を來せり而して昨冬以來大連埠頭の二港より歐洲に輸出したる大豆額は四十萬噸にして今後向引續き輸出さるべきもの五萬噸あり之を合して本期の大豆歐洲輸出高は四十五萬噸となる勘定なり

▲滿洲大豆の世界的位置 歐洲に於ける大豆の需要は之をビンオイルとして今後一層發展すべき筈なれども本期偶々滿洲大豆の大需要を喚起したるは昨年米國に於ける棉花收穫高約三百万俵の收穫減を示したるより隨て棉實油の搾取高百三十萬噸減作を呈したる結果其供給不足を補はんが爲にして其數量の上より見れば現在の滿洲大豆は未だ極めて微々たるものなり

▲大豆と農業 歐米に於ける植物性油の需要の大部分は棉實油にして大豆油麻實油の如きは僅に之を補足する位中麻實油の如きは亞爾然丁印度南國を合しく滿洲大豆に拮抗するの現狀なりされば近年石油其他原料として需要さる、植物性油は年と共に增加の勢を示し夫の驚くべき巨額の產出あるは驚くのみならず其品質は勿論搾粕もまた家畜の食料として遠く大豆粕に及ばざるものあり隨て滿洲大豆の前途は殆ど限なく發展すべき筈なりと雖も滿洲に於ける農業の現狀は之を伸ふて發展すべき餘地甚だ薄きの感あり目下南滿に於ては我都督府鐵道兩者共に滿洲大豆の奬勵法を講ぜざるにあらざれども肝腎の滿洲政府は頗る產業開發に冷淡にして地方農政の如き更に意に介せざるの狀況なり殊に滿洲大豆の殖產に就て最も困難を感ずるは永住の移民少なきことと及一般農民の經濟的狀態に意を勞せざることは是れにして年々多數の山東移民ありと雖も此等の大半は何れも一時的出稼民に屬し專ら一時的勞役に服するを喜び永住的の農業の如きは委して顧みざるに因る

▲肥へた人間の六德

一、體內の燃燒 體力の根原であるが、其燃料として長く持續はしないが、最も有効で容易に利用さるゝものは脂肪である。

二、脂肪が多量に存在して居て、主として燃料となれば他の物質は消耗されずに濟み、殊に蛋白質は酸化に依りて破壞さるゝ事を免れる。

三、又脂肪は何時にても引出す事の出來る、便利な精力の貯藏所で饑餓の前には九割の脂肪が消費されて居るのを見ても分明る。

四、打撲寒冷等に對して身體を保護する用もする肥滿して居る小兒は高熱より墜落するも、安全で又毆打された時も、痩た者のやうに傷を蒙らない。

五、寒冷に對しては厚い毛皮の下着を被て居ると同樣の効力がある。

六、肥滿して居る者は樂天家である。天家なるに類似して居る、何時でも入用の時に引出す事の出來る精力の源なる脂肪が、多量に貯へられて居るので、其れが精力にも影響する筈であらう。

忠淸北道の宗教

同地方人民は一般に宗教には冷淡にて耶蘇教も西韓の如き好成績を收ひる能はず微弱のものなるが今回道に於ける儒佛耶教の概況は左の如し

儒教 深く風習の上に痕跡を止め今尙多少の社會的勢力を存す各郡必らず文廟あり鄉校あり之に屬する財產あり所有學館兒童の切手貯金口數一〇七八金額二十六圓三十錢に上りしも是は一時の好奇に驅られし爲め間もなく續々引出す者多かりしも其間漸く確實なるを認知するに至りしと同時次回は眞面目なる預金をなすに至り既に本年六月中は新預入一五五口金員三十二圓十錢を算するに至れり其預金額の如きも昨年八月頃は十日間に僅々四五册を出に止まりしも昨今は一日間に數冊も十册多きは十四五册に上ると通例となせり要するに昨秋以來の趨勢に無せば來年の今年以外の貯金も漸次好況に向ひつゝあるが女子の漸加するは大に注意すべき事なり元來婦女の成年者は名の無きを常とせるに預金の必要より俄に名命せり然かも文字の排列は從前の韓國式によらず多くは梅子松子の如き日本流を學ぶに至りては嚴世家の一顰に値すべし貯金奬勵の一法として本年五月無數勸勞的の小册を配布したるが相當の効果ありしが如し目下規約的貯金としては命洞普通學校の一校に止まれども追々擴張の積りなり云々

南大門驛旅客近況

兩大門驛六月中乘降客員は降二二八七七〇人乘二〇七九九人收入は三六九七七〇人乘二〇七九九人收入は三六九七七〇人乘二〇七九九人收入は三六九

東京電報

▲日露協約發布　既報の通り日露協約は本日發布されたるが其條項左の如し(十三日)
一、交通の便益を計り商業の增進を期し滿洲に於ける日露貿易の改善運動を計り誤解爭端を除く
二、日清露清の條約協商及び日露條約協商に依り確保せる滿洲の現狀を尊重保全す
三、滿洲の現狀を害する問題に就ては現狀保全の必要方法を協議す

▲韓太子御出發　韓太子は過武官長高東宮太夫等を隨へさせ今十三日午前八時三十分新橋發列車にて山陰山陽御見學の途に上らせられたり各大臣宮內官其の他文武官民見送り盛んなりき(同上)

▲有吉長官着期　有吉總務長官は鄉里京都に立寄り來二十日夜京城に到着すべし(同上)

▲トンネル崩壞　昨夜中央東線島澤猿橋間のトンネル崩壞し大岩石落下し來りて折柄通過せる機關車客車押潰され機關手、車掌始め乘客十二名重輕傷を負ひ即死者三名に及びたり(同上)

鮮滿報

千歲艦長以下調見

山縣副統監は十四日午前十時半仁川入港中の練習艦千歲艦長以下左記十四氏を神閣傳島に謁見敬意を表する由
鮫尾大佐、櫻井中佐、高木機關少佐
神島軍醫少佐、水谷大尉、米村大尉
澤大主計、藤好大尉、和田大尉、芹
崎、岸田兩機關大尉、和田大尉、岡本
機關大尉、岡宮大尉、

統監邸の午餐會

山縣副統監は歸報の如く十三日午後一時より憲兵司令部並に警務總監部の高等官と統監官邸に招待し午餐會を開けり席上山縣副統監の挨拶明石司令官の答辭ありたり出席者氏名左の如し
石塚參與官、明石憲兵司令官、石井少將、國分參與官、山形
隈部、杉村、吉弘、藥師川の各憲兵
櫻井、窪澤、服部、前田、笠、寺平
櫻井の各少佐、永谷警視、中野警務
官、玄角警視、太田大尉、中尉
鄭波通譯官

志士追贈の反影

靈に韓廷は故金玉均、金宏集、洪英植、魚允中の諸國士に對し祭位を追贈し致祭の典を執行せしめたるが以上の諸國士は孰れも朝堂に立ちて國運振興の計を策したるも不幸時勢の容る〻處とならず遂に冤死し及に鶴るに到れり然るに時代の趨向は志士の功業を永遠に埋沒せしめず今回恩典に接したるが今其反響如何を窺ふに頑迷なる兩班若くは儒生等の多くは之を目して拄法

●全北水害後の農作
全羅北道管內は客月中旬より連續の雨
[illegible]
本月一二日の豪雨もて堤堰の缺潰する個所多く[illegible]田の被害甚しかりし

●鎭南浦警察署管內江西郡各面に蝗と稱する害虫梁畑に發生[illegible]

が其後天候回復の爲め一[illegible]
[illegible]の芝蔵なかるべしと[illegible]

●歐洲より歸朝の途次一昨十二日午後五時筑後川丸にて仁川に來着したる水町財務官は同夜宮木稅關長主催の晩餐會席上にて座談として曰く昨今諸外國人の旅行及び韓國を研究視察せんと熱望するもの夥しく隨つて安奉線の開通と相俟つて大連仁川間の航路は愈々密接の關係を彌が上にも深からしめ

●郡主事の配置終る
農に內部より各道へ派遣したる郡主事は各道に於て適宜配置を爲す筈なるが既に之を終了して內務部長の訓示を受け夫れ〳〵任地に就きたりと

●光濟號の大連行き
仁川に碇泊中の光濟號は昨十二日大連に向け出港せり其の要件は無線電信に關する要務を帶びて來韓せんとする木村海軍技師を迎へんが爲めなりと

●南宮の三代下賜品
韓皇室に太皇帝は岡前內部次官、若林

前警視總監、松井前警務局長に對し夫れ〳〵御下賜品ありたりと

●統監迎接員の派遣
韓國政府よりは第三世統監李內子爵の赴任出迎の爲め代表者を馬關迄派遣す
要之に機械費其他の設備費を加ふる以上關釜設備費としては遂當り三百萬圓を投ぜざるべからず而して鐵道院に在つては是等凡ての計畫を明後年初春の安奉線開通期迄に完成する方針なれば此等の計畫が本年度豫算に計上せらるゝは疑ひなきが如し

●有望なる漢江流域
漢江流域中舟楫を通ずべきは上流江原

鮮滿報

千歲艦長以下調見

山縣副統監は十四日午前十時半仁川入港中の練習艦千歲艦長以下左記十四氏を神閣傳島に謁見敬意を表する由
鮫尾大佐、櫻井中佐、高木機關少佐
神島軍醫少佐、水谷大尉、米村大尉
澤大主計、藤好大尉、和田大尉、芹
崎、岸田兩機關大尉、和田大尉、岡本
機關大尉、岡宮大尉、

統監邸の午餐會

山縣副統監は歸報の如く十三日午後一時より憲兵司令部並に警務總監部の高等官と統監官邸に招待し午餐會を開けり席上山縣副統監の挨拶明石司令官の答辭ありたり出席者氏名左の如し
石塚參與官、明石憲兵司令官、石井少將、國分參與官、山形
隈部、杉村、吉弘、藥師川の各憲兵
櫻井、窪澤、服部、前田、笠、寺平
櫻井の各少佐、永谷警視、中野警務
官、玄角警視、太田大尉、中尉
鄭波通譯官

志士追贈の反影

靈に韓廷は故金玉均、金宏集、洪英植、魚允中の諸國士に對し祭位を追贈し致祭の典を執行せしめたるが以上の諸國士は孰れも朝堂に立ちて國運振興の計を策したるも不幸時勢の容る〻處とならず遂に冤死し及に鶴るに到れり然るに時代の趨向は志士の功業を永遠に埋沒せしめず今回恩典に接したるが今其反響如何を窺ふに頑迷なる兩班若くは儒生等の多くは之を目して拄法

●全北水害後の農作
全羅北道管內は客月中旬より連續の雨
[illegible]
本月一二日の豪雨もて堤堰の缺潰する個所多く[illegible]田の被害甚しかりし

●鎭南浦警察署管內江西郡各面に蝗と稱する害虫梁畑に發生[illegible]

が其後天候回復の爲め一[illegible]
[illegible]の芝蔵なかるべしと[illegible]

●歐洲より歸朝の途次一昨十二日午後五時筑後川丸にて仁川に來着したる水町財務官は同夜宮木稅關長主催の晩餐會席上にて座談として曰く昨今諸外國人の旅行及び韓國を研究視察せんと熱望するもの夥しく隨つて安奉線の開通と相俟つて大連仁川間の航路は愈々密接の關係を彌が上にも深からしめ

●郡主事の配置終る
農に內部より各道へ派遣したる郡主事は各道に於て適宜配置を爲す筈なるが既に之を終了して內務部長の訓示を受け夫れ〳〵任地に就きたりと

●光濟號の大連行き
仁川に碇泊中の光濟號は昨十二日大連に向け出港せり其の要件は無線電信に關する要務を帶びて來韓せんとする木村海軍技師を迎へんが爲めなりと

●南宮の三代下賜品
韓皇室に太皇帝は岡前內部次官、若林

東京電報

▲日露協約發布　既報の通り日露協約は本日發布されたるが其條項左の如し(十三日)
一、交通の便益を計り商業の增進を期し滿洲に於ける日露貿易の改善運動を計り誤解爭端を除く
二、日清露清の條約協商及び日露條約協商に依り確保せる滿洲の現狀を尊重保全す
三、滿洲の現狀を害する問題に就ては現狀保全の必要方法を協議す

▲韓太子御出發　韓太子は過武官長高東宮太夫等を隨へさせ今十三日午前八時三十分新橋發列車にて山陰山陽御見學の途に上らせられたり各大臣宮內官其の他文武官民見送り盛んなりき(同上)

▲有吉長官着期　有吉總務長官は鄉里京都に立寄り來二十日夜京城に到着すべし(同上)

▲トンネル崩壞　昨夜中央東線島澤猿橋間のトンネル崩壞し大岩石落下し來りて折柄通過せる機關車客車押潰され機關手、車掌始め乘客十二名重輕傷を負ひ即死者三名に及びたり(同上)

(第三種郵便物認可) 明治四十三年七月十四日 (木曜日) 毎週一回 (三)

東京新聞

人を見る法

思ふに人を見る法は時に依り場合に依りて千差万別なれども、今日は極簡単を旨とし、なるべく誤まらざる方法を説かんとす。

富士川を下る

富士川を下つた、暮いたのがト、ボ〳〵暮れの逢魔が時、元来此の松野と云ふ所は一寸大きい村ではあるが街衢には成つて居ても、徒つて旅宿と云ふ如き繁華なものは無いのだ、で日蓮宗の寺の名は忘れたが（何でも南松原の何んとか寺と云ふ高地上に城郭の如く建つて居る）其所を訪れて、住職に面会を乞ふた、住職曰く、男ばかりの寺へ泊るより、保家に宿る方が御難走がありませんとて自ら門前の雑貨屋に案内して行くと云はれる、至極結構なりと勇み立つた途端に、俄に便を催したので長い廊下を便所に辿る行方の薄暗い中に抜け出る程白い長い頸脚を見せて、柳の枝に身を凭せて何やらものを考へる如スッキリ立つてる女がある、ホイ悪い者を見た哩、彼の生臭坊主も此れ有るが故に襲切ぶがしに我慢を出抜つたのだナと可笑しさ半分、氣の毒にもあり顔を見ない如に常面に通り過ぎて一歩の私の肩へ其の女が何にも云はず雨の腕を投げ掛けたハット思つて振り返つた眼の先へヌット突き出た女の顔は目も鼻もない野蛮様、撥丸虎か勝玉さで極み上つた、大便どころの騒ぎでもない其の儘取つて返して何食はぬ顔で宿に着いて強か酒を呷つて眠に入つた翌日寺を訪れて其の箇所を通つて見ると、何もない只大きな蜘蛛が吊るされては一息と吐いた、前夜の出来事は此れに限る事つて後聞素の目由行動を遮起さしめて現はれた幻覚であつたかと謂り若

頭巾

頭巾とは我々の脳髄中の一部であるが此奴は一度見た事は決して忘れない、誰へば或る友人の顔を思出さうとすれば直ちに眼前に見ることが出来るのは誰君御承知のとである、此れは後頭葉の奴が我々の要求に応じて保存して居るのをチナ御覧なさいと突き出すからだ、然るに此奴不埒なことには前記の如き場合其の人が決して見たいとも思はぬ時分つて見た或るもの、ヒ此れに搭り付けて自分勝手に「一つ此を御覧になつては如何様でせう」と持ち出す、持ち出された御当人は感ずれて居るから吃驚仰天意地も外見もなく、甚だしい醜態を演ずるのであるが此奴を甘く誘導ると何時でも聞いた所へ入つて眼を剖と睨まるから見やうと思ふものを好き自由に見得る事が出来る、チアバうなると海山千里を隔てゝ居て思ふた方を思ふた時に思ふさま見らるゝ、左様して更らに遡ぎし逢ふ夜の睦言を思ひ出して恐ひ戦ることも出来るのである（ひの字）

韓皇近時の動静

▽日の暮るゝを待佗玉ふ炎暑の候に向へる今日此頃韓皇の御近状如何あらせらるゝかと承るに健康は漸やが上にも勝れさせられ定めの日課は常て缺かせられたる事なく先づ朝は必ず八時には起床遊ばされ直ちに冷水を清ませ九時朝餐を召されて後大造殿に出御ましまし日々数件なく奏上し来る政務を一々御裁可の上侍臣を随へて御室を賜はり彼是する内に午鐘の音響くや午餐の御食堂に就き玉ひ侍従及び女官等に取圍まれながら嬉んとして之を済ませ夫れより右の後へゆり椅子に倚掌なる庭園を縦ひ歩き時に洋杖をもて愛養の鶏或は小鳥抔に戯れ斯くて御散歩に二時間乃至三時間程も費させられ午後四時頃へ十時には必ず晩膳に入らせらるゝが此間侍従及女官等代る〳〵侍べり奉りて其日一〳〵の新聞珍事と言上し韓皇には之を聴くを何よりの楽みとせられて

日の暮

日の暮るゝを殊に待遠しく思召さるゝ由面して韓皇には屋外に踏歌を弄せられ奇麗沸くが如く侍臣等為めに胸を解き大意殿裡は何時も夏向素の如く若

女振り

青木清六氏の人夫子

青木清六君は鹿山青木医院主で熊本縣天草郡久留村に明治九年十二月を以て生れ、書学専門学校卒業後東京に出て前後期の試験を受けて免状を取つた、間もなく仙台の公立病院医院に招聘せられたる事なく先づ朝は必ず八時には起床遊ばされ直ちに冷水を清ませ九時朝餐を召されて後大造殿に出御ましまし日々数件なく奏上し来る政務を一々御裁可の上侍臣を随へて御室を賜はり彼是する内に午鐘の音響くや午餐の御食堂に就き玉ひ侍従及び女官等に取圍まれながら嬉んとして之を済ませ夫れより右の後へゆり椅子に倚掌なる庭園を縦ひ歩き時に洋杖をもて愛養の鶏或は小鳥抔に戯れ斯くて御散歩に二時間乃至三時間程も費させられ午後四時頃へ十時には必ず晩膳に入らせらるゝが此間侍従及女官等代る〳〵侍べり奉りて其日一〳〵の新聞珍事と言上し韓皇には之を聴くを何よりの楽みとせられて

日の暮

日の暮るゝを殊に待遠しく思召さるゝ由面して韓皇には屋外に踏歌を弄せられ奇麗沸くが如く侍臣等為めに胸を解き大意殿裡は何時も夏向素の如く若

御聰明

▽被告人の無罪宣告

控訴院の判決に依り十二日終決の公判開廷あり被告人の無罪を泣訴す

▽被告人の無罪を泣訴す

如上の事実に依り十二日終決の公判開廷あり被告人の無罪を泣訴す

▽被告人の無罪を泣訴す

▲全北水害後の農作
全羅北道管内は客月中旬より連続の豪雨あり、富の全部職員を下りしに昨日本月一二日の豪雨ありて堤防の破壊する箇所多く殊に南田の被害甚しかりし

▲熊井駅之助（熊岡縣港務部長官）十一日午後より入京山本旅館へ投宿

▲宮川字三郎（歩兵中尉）十二日海州

▲向井出殺
▲須田鶴一（歩兵中尉）十二日盛山〉
▲叙任辞令
左之通り辞令あり

馬賊大連市中現はる

▽未だ更けやらぬ午後十時去る八日午後十時大連市浪花町に六名より成る馬賊の一隊現はれ支那商人等居店慶登福の店を襲ひ七百餘圓の正貨を掠奪し聞に紛れて逃走せる様事あり、しが彼等が遺失したる質札が屈強の手掛となりて其後漸々縛に就つゝあるが日本市街にかゝる大胆事ありとは実に驚くの外なしといふべし

南山の縊死未遂

▽人力車夫の奸手段

山口縣熊毛郡周防村中原手代吉四女さよ（十七）と云ふは結方某なるものに釜山郵便局に勤務し交換手に世話すべしと欺かれ同盟渡韓したるも右は悉皆虚言にて遂に京城に同盟せられたるに結方某は伊藤組の人力車夫にして同人の賞め脅迫せられ同様せしも其の虚偽に堪へ兼ね十二日夜南山に縊死の目的を以て潜行中巡回の邏査に認められ本署へ連行取調べの結果、前記の事実判明せるより結方を呼び出し將来厳戒の上一先づ同人に引き渡されたりと云ふ

●残金三十四圓也

熊本縣宇土郡郷浦村二千三百八十九番地平民当時住所不定ペンキ塗職山下慶次郎なる者は本年三月春川より来り御成町一丁目宿屋尾張屋に止宿し七月十日迄の宿料五十四圓の内十四圓を支拂ひ殘金は或所の事業を請負居るに付成功の上支拂ふ可き旨申し此の頃外出の儘帰家せざるより主人熊澤利左衛門は西部署に告訴提起せし由なるが事業の有無が疑問也

●門戸開放の行水

仁川仲町一丁目居住の大和組仲仕某の妻トク（三五）は人目もあらうに一昨日の午後六時頃街路に面せる場所にて行水を為しつゝあるに在通行人中の自然主義者として歩を止めしめ居たるが警官折悪しく通り合せ厳しく説諭したりと

市況

▽米穀

▽人参

▽鉱業

▽株式

▽為替

▽金銀

▽商況

質問

▽

餘録

▽

支那

▽

七百

▽

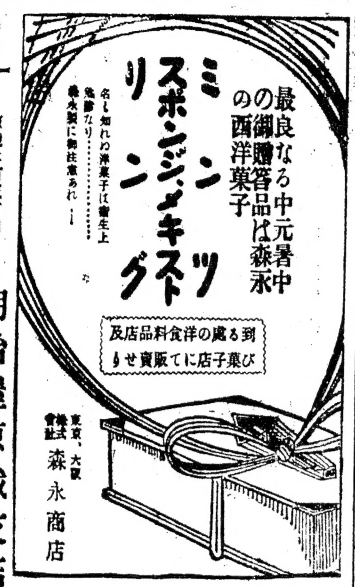
商人

▽

市況

▽

中元進物と蓄音器
蓄音器の進物も亦妙
朝鮮名妓音曲
日本大家音曲
數千種新荷着
特別廉價販賣
京城本町
辻屋
蓄音器部
本店 電話六六三番
支店 電話六四二番
韓國仁川元山釜山群山
京城龍山
出張所 仁川本町三丁目



特約店
京城本町三丁目 明治屋
京城本町二丁目 亀屋
釜山辨天通二丁目 齋藤第一支店

京城相生町南門通横（電話一二九四番）
自午前八時 至午後九時
●花柳病專門 ●入院醫療
京城梅毒病院
院長 醫學得業士 蘆田耕平

來ル七月十五日(金)十六日(土)十七日(日)三日間(曜日決戰)
選手二百點以下
●玉突競技會
●會費金壹圓五拾錢出直シ五拾錢
●會費一切現金ノ事

景品目錄
特別賞 賞金壹拾圓也
但三人共五回勝一等候補者トス
京城米倉町和樂園附
好松軒 電話九三七番

壹等 七十圓也 商品券
貳等 三十五圓 同上
三等 二十圓也 同上
四等 十五圓也 同上
五等 十圓也 同上
六等 三圓 商品券
七等 二圓五十錢 同上
八等 一圓 同上
九等 二圓五十錢 同上
十等 一圓 同上

中元聯合大賣出し
自本月十一日 至同二十日
現金に限り
御買上けの金高に相當する澤山の御添物進呈可仕候
其他見切物並によせ切に限り添物無之候

吳服商組合
京城本町四丁目 林吳服店 (電話六五二番)
京城本町五丁目 山枝吳服店 (電話二二四番)
京城本町四丁目 山口吳服店 (電話九番)
京城本町三丁目 圓城吳服店 (電話一五七番)
京城本町二丁目 惠阪吳服店 (電話七二六番)
京城本町四丁目 永吳服店 (電話六八二番)

京城明治町一丁目 電話一千四百〇九番
ふり德商店

諸官衙御用達
和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸雜料類
營業科目
京城 ランバーグ商會代理店
京城 中外アルファルト株式會社代理店
京城 千代田生命保險相互會社代理店
委託販賣
京城 藤田合名會社
京城 博文館發行書籍特約店
京城 金港堂發行書籍特約店
仁川 高麗合資會社大阪商船特約
本社 京城明治町二丁目三〇番
出張所 京城京畿道京城十丁目
仁川本町三丁目
釜山南濱町
新義州電信橋
大邱本町一丁目九六三

統監府及諸官衙御用達
荷物運搬 引越荷物受負
伊藤組
電話 四〇番
電話 七三二番
電話 九四八番
電話 一六〇八番
本町三丁目
南大門驛
大和町
同第二

特約 味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店
(電話一二五一番)
自製 ビール 新茶
大賣出し

奥出洋服店
京城櫻井町五十七番ノ一(電話一二五五番)

ビヤホール
氷アイスクリーム
◎登呂呂汁(御麥の御飯)
◎和洋會席御料理(御手輕主義)
旭町一丁目 度支部官舍下隣
松風軒

明治廿年七月創立
京城代辨店 本町四 山口吳服店電話九番
資本金一千萬圓
●本務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番
東京海上運送保險株式會社

金錢貸借電話譲渡
土地家屋老舗賣買
人事百般其他
京城明治町一丁目勸商銀前(電話一二九八)
周旋業 明治屋

夏の和樂園
御料理 席貸 高田家 電九三七
不相變御引立之程乞

裁縫割烹教授所
規則書御入用の方は郵便切手二
錢御封入の事
京城南山町三丁目三十番
野村さわ (電話一四二〇番)

★株式會社百三十銀行
京城本町二丁目十五番地 電話五十八番 支店
資本金五百萬圓 頒取 安田善三郎
爲替取組先
畿內 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野、住吉、茨木、下市
東海道 名古屋、牛田、熱田、四日市、御岡、山田、桑名、松阪、大磯、甲府、沖津、東京、横濱、大船、甲府、御岡
東山道 近江、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、高森、秋田、能代、土崎、高崎
北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、高岡、富山、伏木、新潟、宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取
山陰道 米子、境、松江、八幡、大田
山陽道 龍野、姫路、西大寺、笠岡、高梁、玉島、福山、柳井、平生、厚狹、島原、岩國、山口、小郡、長府、朝干、下關、萩、須山、小郡、長府、
南海道 牛窓、味野、岩見、四山、
西海道 申本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鹿、州本、佐賀、鹿島、善通寺、丸亀、高松、八幡濱、川之石、宇和島、八幡濱、西條、松山、三津ヶ濱、直方、飯塚、博多、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、伊萬里、牛津、長崎、佐伯、別府、大分、宮崎、路兒島、八幡、札幌、長洲、
北海道 函館、小樽、室蘭、
西國 岡山、
台灣 基隆、臺南、元山、鎮南浦、平壤、
清韓 仁川、釜山、
木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、
營州、鳳州、馬山、
銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 九拾五萬圓
京城南大門通
株式會社十八銀行 京城支店
(電話四二〇)

韓國本店 京城龍山 仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山
日本支店 長崎市鍋町 出張所 大阪、熊本、佐世保、嚴原、島、豐橋
其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり
一口金壹萬以上何程にても御預り申候
貯蓄預金 (利子年五分)
長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)